

広島県鉄構工業会

研究内容と成果を発表

建築学会中国支部研究発表会

広島県鉄構工業会（理事
長）山本泰徳・ステントス



船山氏

宇部市常盤台の山口大学工
学部で開催された2018
年度日本建築学会中国支部
研究発表会で「拡大孔を有
する亜鉛めつき高力ボルト
接合のすべり係数に関する

研究」の研究成果を発表し
た。

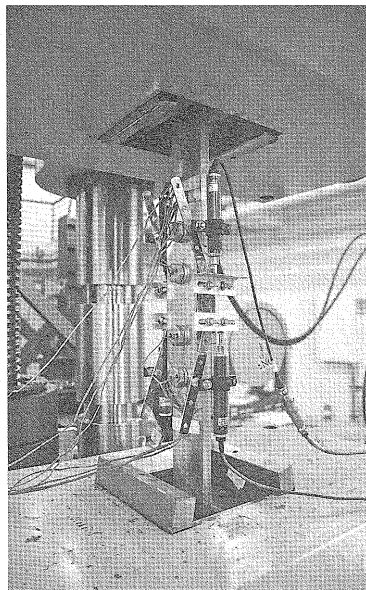
そのうえで①溶融亜鉛め

実情調査が必要——などの
要点を示した。

学会・中国支部鉄骨製作部
会の事業の一環で、全国鐵
構工業協会の「鉄骨技術研究
開発補助制度」を活用した。

発表者は船山聖喜氏（三
和鉄構建設工場長）が務め、
実験で実施した溶融亜鉛め
つき加工を施した母材（中
板）およびそれを挟む2枚
の側板と溶融亜鉛めつき高
力ボルトで接合した試験体
の引張り試験のすべり荷重
・すべり係数を測定したデ
ータ内容について解説した。
つきの高力ボルト孔は拡大
孔（プラス3ミ）であって
もボルト引張りやすべり係
数にほとんど差がない（す
べり係数は0・5以上）②
めつき槽への漬け込み過程
でボルト孔のめつき厚さに
差が生じたため、力学的な
性状に加えてめつき厚さの

ニュースフラッシュ



すべり試験の状況